

編集後記

二〇一七年度の共同研究は、例年通り、本学生涯学習講座「知りたいっちゃ沖繩、行きたいっちゃ沖繩」とのコラボレーションで行われた。この講座も開講してすでに七年目が過ぎようとしている。座学だけではなく、講座終了後には「沖繩ツアー」が実施されて、「目で見て、耳で聞いて、手に触れて」実際に沖繩を感じることができこの講座には、リピーターの方々が参加されとともに、毎年、新たな受講生が加わってくださっている。ありがたいことである。

開講当初、沖繩ツアーでは沖繩本島を巡っていたが、ここ何年かは沖繩周辺離島を含め、先島の島々を訪ねている。これまでに、沖繩周辺離島では、久高島、浜比嘉島、平安座島、宮城島、伊計島、伊是名島を訪ね、宮古諸島では、宮古島、多良間島、池間島、伊良部島を、八重山諸島では、石垣島、竹富島を訪ねた。手前味噌ではあるが、講座内容とあわせて、いずれも内容の豊かなツアーとなった。

今年度は、十二月十九日から二十三日までの四泊五日の日程で、石垣島と小浜島を訪ねた。参加者は引率教員三名を含めて十八名であった。小浜島と言えば、NHKの朝の連続テレビ小説『ちゅらさん』の舞台となり、全国にその名が知られるようになった島である。

小浜島では島在住の新本光孝氏と花城正美氏に大変お世話に

なった。両氏は「ウカーの一本松」「山の子守唄の碑」をスタートに、『ちゅらさん』ゆかりの「こはぐら荘」や「シユガーロード」は言うまでもなく、島のシンボルである「大岳」や、貴重な文化遺産となっている「漁垣」など、文字通り、島中を隅から隅まで懇切丁寧に御案内くださった。小浜島の持つ豊かな自然環境に包まれて、人々が人間的にも豊かな生活を送っていることが感じられた。

今回の小浜島探訪で印象的だったのは「KBG84」（小浜島ばあちゃん合唱団）のメンバーのお一人と出会ったことだろう。この方は新本氏のお母様で、御年八十八歳であったが、実に矍鑠としていて、生き生きとして小浜島での生活を語ってくださった。今回、私たちのツアーに参加した最高齢は七十七歳であったが、参加者の誰もが彼女の生き方に感銘を受け、これからの自分たちの人生にあるべき姿を見出したのであった。

石垣島では山里純一氏に大変お世話になった。山里氏は、今回のツアー全行程について何度も沖繩―石垣間を往復して下見を重ねてくださった。新本氏を御紹介くださったのも山里氏である。また、花城氏は山里氏の琉球大学八重山芸能研究会における後輩にあたるという。こうしたつながりから今回の石垣島・小浜島ツアーが、例年にも増して充実したものとなった。これもひとえに山里氏の御尽力のおかげである。

さて、石垣島では、旧知の宮城幸子氏も加わって、バナナ公園をスタートに、御神崎、川平湾、野底マーペー、平久保灯台、玉取崎などを巡った。御神崎で海から吹きつける強風はま

ともに立ってられないほどに強烈であった。川平湾は、少し曇ってはいたが、やはり石垣島随一の絶景スポットであった。

野底岳にはバスで頂上付近まで登ったのであったが、道路が狭い上に、道路の上に両側から大きな木の枝が覆いかぶさったところがあり、バスの運転手を難渋させたが、なんとか行くことができた。平久保灯台に着いた時にはようやく晴天となり、海の青さを満喫することができ、玉取崎では眺望を楽しむことができた。こうしたツアーの中で山里氏と宮城氏は三線を弾いて八重山民謡を御披露してくださり、忘れ得ぬ思い出となった。

昨年度、山里・宮城両氏による本学での講演「天空のコスモロジー」が開催されたことも手伝って、今回の石垣島ツアーでは「星見ツアー」が企画されていた。残念ながら、雲が多く、やや肌寒かったこともあって、十分に星を見ることはできなかったが、それでも星の見えない仙台とは違って多くの星を見ることができたのは貴重な体験であった。

毎年、こうして一つ一つ経験が増えていって、自分の知らない世界に触れることができるのは楽しいことである。石垣島のミンサー工芸館、居酒屋「とうまーる」での懇親会など、挙げればきりが無いほどにたくさん思い出が出来たことは今回のツアーの一番の成果であったであろう。

末尾ではあるが、山里氏、宮城氏、新本氏、そして花城氏には、この場を借りて、心より御礼を申しあげたい。

(文責 今林直樹)